

2018年3月2日

小学館『月刊コロコロコミック』編集長殿

モンゴル研究に従事している者として、『月刊コロコロコミック』2018年3月号に掲載された「やりすぎ!!! イタズラ君」に関して意見を申しのべたいとおもいます。

3月号の「やりすぎ!!! イタズラ君」が、モンゴル国の建国の父であるチンギス・ハーンに対するモンゴル民族の尊敬の念をふかく傷つける内容をふくんでいることについて、在日本モンゴル大使館などから抗議がよせられ、それに対して「コロコロコミック」の公式サイトに謝罪文が掲載されたことは承知しております。「今後はかかる事態を起こさないよう、モンゴルの歴史・文化に関する知見を深め、一層の配慮をして参る所存です」という方針が表明されたことは、充分評価したいとおもいます。「表現の自由」は最大限尊重されるべきですが、諸外国で敬愛されている、あるいは神格化されている人物をおとしめる描写は、たとえ漫画という手法であってもゆるされない場合があることに配慮していただきたいです。

ただし、問題は将来のことではなく、現実に店頭で販売されている雑誌が子供たちにおよぼしうる悪影響にあるとかがえます。すでにいくつかの大手の書店チェーンが店頭から問題の雑誌を撤去したことはご存知のとおりです。可能であれば、出版社によって回収の措置がとられることがのぞましいと判断します。あわせて、単行本化するとき今号の分は除外すること、作者の吉野あすみ氏が立場をあきらかにすること、この2点も要望したいとおもいます。

日本モンゴル学会有志
二木博史（会長）、萩原守（副会長）、島村一平（理事）